



岷江入楚

海雲

卷十九

特別
~ 12
4604
18



712
4604
18



薄雲

廿歲 内大臣

大井里冬住居事

明石姫君可守後二条院有撥事

十二月姫君守定二条院事

同著袴事

廿一歲

三月出大井住居事

源氏引^筆明石孫比巳事

攝政太政大臣薨死事

天皇顯示事

三月入道文相繼事

行幸三条文事

入道宮崩御事 三十七歲

法務僧都作夜辰之吹子之上物撥事 皇太后崩御事

櫻園中務之文薨給事 元為或事

小汀文庫

原氏可任太政大臣之由有西氣色原氏因禱事
 秋加階并懸牛車奈内事
 權中納言任大納言兼大納言
 皇命婦任御通殿事 原氏同任事
 齋宮女御西宮奈院任事
 行慶殿任事原氏有父子儀事
 源氏兼兼美女御方不物諸事 女御好秋事
 又后第上西封御物諸事 女君歌春任事
 原大井里任事

薄雲

龍吟歌后卷右

何原之新
 入日山を孝子たまひくふを物部神よりやゆつる
 又詞云云れすくわねるうい久らるとあり初をともり
 て名とまるとふさしや原氏亦成れをより世一歳の秋
 まての事なり
 春名の事異く松風と同年也亦歳の冬より次は亦一
 の秋よりてれ事あり

冬もたりのけりもよほつるれをまわ

もこれ大井乃里事あり

或は流冬よりれ川凡こけりうつらわらりたゆ
 うのり
 明石との心明石の四里とこりれきて又原したくはし
 なくはし

君もおしくて、
のちのち前 秘 二條院、あし 長門

つとてあつてくこころをいふも

同様上 けりうらわらぬまじらうけりける異れににぞくひんきき
あつれにさしあがりあつるさうらぬとつりたれにささ
てしるしめしゆりたれし女

秘 女とてまらも女を早り電うつき前の草くもあつた
後撰十訓 秘 けりあつるくこころをいふも
あつるくこころをいふも 秘 明石五郎に二條の東院よりあつては乃
おあしあつるくこころをいふも 秘 けりいふも

私大井 秘 けりいふも 秘 けりいふも
けりいふも 秘 けりいふも
けりいふも 秘 けりいふも
けりいふも 秘 けりいふも
けりいふも 秘 けりいふも

いふついでいふついで

何れを けりいふも 秘 けりいふも

私昇同奇ツリク 秘 けりいふも

二條の東院 秘 けりいふも

けりいふも 秘 けりいふも

けりいふも 秘 けりいふも

夫 明石五郎 秘 けりいふも 秘 けりいふも
一勅大畷三威時有と但五才以上例又句珍也
九才着袴 秘 けりいふも 秘 けりいふも
のちのち前 秘 けりいふも 秘 けりいふも
私一勅 秘 親王着袴 秘 例也

くすくすといひゆるはるるにみとせし人こそちかひにらり
の人のよきなりしとぞ

ねがひぬ人のあはれいさなめい
秘明るよ(早)

私思ふ世おれ人のうへに世はよきとけり世人のまぢり
うよよといひおしぬしれとゆるるも世のちかひ人の
中をねえるとも来りしにけりけりまじりて
人もりざまじり

是は世の人の親のまじり世のまじりて我をわづらひ
まじりてよき世のまじりてまじりて
わづらひてまじりてまじりて

我は自我身れ上のまじりてねえのまじりて
秘明るよ

おいさんとねえ人のけり
秘明るよ

はのまじりのまじりて
ねえまじりてまじりてまじりて

けりといひ

けりといひまじりてまじりて

ねえのけり分りまじりてまじりて
とまじりてのまじりて
又まじりてまじりて

まじりてまじりてのまじりて
秘明るよ

まじりてまじりてまじりて
まじりてまじりてまじりて
まじりてまじりてまじりて
まじりてまじりてまじりて
まじりてまじりてまじりて

まじりてまじりて
秘明るよ
あまねおれいわりまじり

何と云て、所しむいふるも本意の心高版のり中意

版のりおしり此不と高版のりうげのみ
所しむいふる秘本甚し 兼おしり此版人もさるをすま
おしり此 秘本高版

私に股いさう心ゆく一親に大長きとの女をなすへ
もちくも人をも中し親にも大長も胸高あり一其
おしり此おしり此おしり此おしり此おしり此おしり此
ても本意と本意と本意と本意と本意と本意と本意と

ましてうらふ版んこと本意と本意と

私に股いさう心ゆく一親に大長きとの女をなすへ
もちくも人をも中し親にも大長も胸高あり一其
おしり此おしり此おしり此おしり此おしり此おしり此
ても本意と本意と本意と本意と本意と本意と本意と

おしり此おしり此おしり此おしり此おしり此おしり此

親をさしつれはるあり別世のおはともわ物と保し
兼おしり此おしり此おしり此おしり此おしり此おしり此
おもいおしり此おしり此おしり此おしり此おしり此おしり此

おしり此おしり此おしり此おしり此おしり此おしり此

或いさうの推量れましく物をさく推量る人いさう
私に股いさう心ゆく一親に大長きとの女をなすへ
おもいおしり此おしり此おしり此おしり此おしり此おしり此

おしり此おしり此おしり此おしり此おしり此おしり此

おしり此おしり此おしり此おしり此おしり此おしり此

親をさしつれはるあり別世のおはともわ物と保し
兼おしり此おしり此おしり此おしり此おしり此おしり此
おもいおしり此おしり此おしり此おしり此おしり此おしり此

おしり此おしり此おしり此おしり此おしり此おしり此

或いさうの推量れましく物をさく推量る人いさう
私に股いさう心ゆく一親に大長きとの女をなすへ
おもいおしり此おしり此おしり此おしり此おしり此おしり此

つらつらりにてなり

秘明石と

わたりしをいんとあふさへよりりてりし

秘 明石のふつとあふさへいあひてふつとあふさへい
あつてもえのあつて

あつてもえのあつて
あつてもえのあつて

あつてもえのあつて
あつてもえのあつて

あつてもえのあつて
あつてもえのあつて

あつてもえのあつて
あつてもえのあつて

あつてもえのあつて
あつてもえのあつて

あつてもえのあつて

あつてもえのあつて

あつてもえのあつて

あつてもえのあつて

あつてもえのあつて

あつてもえのあつて

あつてもえのあつて

あつてもえのあつて

あつてもえのあつて

あつてもえのあつて

あつてもえのあつて

あつてもえのあつて

あつてもえのあつて

あつてもえのあつて

あつてもえのあつて

乳母の詞

こゝろをさしつけてわらうなり

秘 原の来りなり

まはまはらききや

秘 西白菊

さあんとおやめらるるなり

をよのつねに原氏をまらきあるをわらうなり

秘 けりておしつたるなり

人御りあるはゆゑ人のまらきなり

秘 我らなりはるはるなり

わらうなりわらうなり

明るなりわらうなり

いよなりわらうなり

いよなりわらうなり

いよなりわらうなり

いよなりわらうなり

いよなりわらうなり

いよなりわらうなり

いよなりわらうなり

たれありなり

こゝろをさしつけてわらうなり

秘 原の来りなり

まはまはらききや

さあんとおやめらるるなり

をよのつねに原氏をまらきあるをわらうなり

秘 けりておしつたるなり

人御りあるはゆゑ人のまらきなり

秘 我らなりはるはるなり

わらうなりわらうなり

明るなりわらうなり

いよなりわらうなり

いよなりわらうなり

いよなりわらうなり

いよなりわらうなり

いよなりわらうなり

いよなりわらうなり

いよなりわらうなり

いよなりわらうなり

いよなりわらうなり

いよなりわらうなり

いよなりわらうなり

こゝろのまじりやたゞりいふをせぬつと
私をいふらふにこれよりあつたつたつらりか
ふたれいふつとこゝろはあつたつたつらりか
あはれいふつとこゝろはあつたつたつらりか

私
あはれいふつとこゝろはあつたつたつらりか
あはれいふつとこゝろはあつたつたつらりか
あはれいふつとこゝろはあつたつたつらりか
あはれいふつとこゝろはあつたつたつらりか

あはれいふつとこゝろはあつたつたつらりか

あはれいふつとこゝろはあつたつたつらりか
あはれいふつとこゝろはあつたつたつらりか
あはれいふつとこゝろはあつたつたつらりか
あはれいふつとこゝろはあつたつたつらりか

こゝろのまじり 姫君のいふ

神をいふつとこゝろはあつたつたつらりか

あはれいふつとこゝろはあつたつたつらりか
あはれいふつとこゝろはあつたつたつらりか
あはれいふつとこゝろはあつたつたつらりか
あはれいふつとこゝろはあつたつたつらりか

あはれいふつとこゝろはあつたつたつらりか
あはれいふつとこゝろはあつたつたつらりか
あはれいふつとこゝろはあつたつたつらりか
あはれいふつとこゝろはあつたつたつらりか

あはれいふつとこゝろはあつたつたつらりか
あはれいふつとこゝろはあつたつたつらりか
あはれいふつとこゝろはあつたつたつらりか
あはれいふつとこゝろはあつたつたつらりか

ふさとのつれくまきりていふ日

原の心

秘 月よりよりのとらるやりのよ

私幸にゆへに山ありは姫君のお子なうてはけり
ものいさるらり 秘 存命

いさるや人のおしよきしよまきよ

秘 原の心 甲の山脈んわおしよまきよ

手物とし 秘 山脈んわおしよまきよ

何とやんそに母これ若ちとふらわし

こいハ人こりて

又此君乃て母を井ん見えれ人こりて

秘 やしくちりて

い姫君の心なむおしよまきよ

又此乃ちいぬれくちりて姫君の心なむおしよまきよ

或は家の心なむおしよまきよ 秘 存命

又やんこるまきの

又乳母をさきりて

いしりまきりてわさおしよまきよ

秘 別へ後宮みしゆへおしよまきよ

みこのまきりておしよまきよ

いさるや人のおしよまきよ

いさるや人のおしよまきよ

いさるや人のおしよまきよ

いさるや人のおしよまきよ

秘 月よりよりのとらるやりのよ

いさるや人のおしよまきよ

いさるや人のおしよまきよ

秘 存命 一説云玉手織りて袍の上玉をとりて

いさるや人のおしよまきよ

いさるや人のおしよまきよ

いさるや人のおしよまきよ

いさるや人のおしよまきよ

いさるや人のおしよまきよ

いさるや人のおしよまきよ

山さとのつれく

明るよら

地さいつしき

ちり政ふ下

ゆくのちみ

幸のたのむ

つ子のむねのうらこし 藤若なるを根をいりり下は根
人乃ちあはれあつるあつる

まらりま

空のいともうい

女もいあす

空のいかりりておれ

とはいつねぬ

姫元の三ついり

外に空層の卯

同空層卯

こしらえを

姫元のすりり

あすくらり

何 根人の奇く

た久良比止言乃不称く女く末に多し止亦知川礼為見
已言安春止もい成女利行可太休三段川下たぬ世那成
天可安利己辛や言与や安春可干利己辛言成己止亦
安春も利己己也言おた安春もた利己己也言与や
催馬楽呂根人

根人の奇よその舟らめくくあせまみまへあひうどら

けやくもしどら

何

根人乃ちよその舟らめくくあせまみまへあひうどら

根人の奇よその舟らめくくあせまみまへあひうどら

根人乃ちよその舟らめくくあせまみまへあひうどら

根人の奇よその舟らめくくあせまみまへあひうどら

根人乃ちよその舟らめくくあせまみまへあひうどら

根人の奇よその舟らめくくあせまみまへあひうどら

根人乃ちよその舟らめくくあせまみまへあひうどら

根人の奇よその舟らめくくあせまみまへあひうどら

根人乃ちよその舟らめくくあせまみまへあひうどら

根人の奇よその舟らめくくあせまみまへあひうどら

根人乃ちよその舟らめくくあせまみまへあひうどら

根人の奇よその舟らめくくあせまみまへあひうどら

根人乃ちよその舟らめくくあせまみまへあひうどら

根人の奇よその舟らめくくあせまみまへあひうどら

根人乃ちよその舟らめくくあせまみまへあひうどら

根人の奇よその舟らめくくあせまみまへあひうどら

色原

かきうてうあせもねえ味くまをらかたのこもくた
色原の通寄にあせもやくゆえんといふら
秘 ころえといふあかん

秘 あせもねえも標人の初まわさのいんま
らせくともあせりりんとはなまをりもやくゆえん
私しあせもわつりんとあつー ひと昇

何 早来こやくえ 又云實本又とまを
ほひとあらんといふまをあらんといふら
同もいん標人初まわえん又實本まをのこ

まをわいん標人中くとあせもわく成もあせもわ
えんと色原とほ切らうまをみまわ中もあ
いぬくりてまをわつらまをわくもあつら

とふあせもは標人の初まわえんまをわく
まはやくらんといふらまをわく
まにまもまわつて
明ら上のまゆくは色原まをわくまをわく

ういらくし 標人と色原のまをわく

おりしゆまをわく
ゆえんの上と申 標人のまをわく

秘 いろまをわくすん
秘 色原のまをわく
まをわく

秘 色原のまをわく
まをわく
秘 色原のまをわく
まをわく

大井の家をわくすまをわく

みつしれけいんと 是らうゆえんの上のまをわく 色原のま

明ら上のまをわくまをわく
入る乃がしんあまをわくまをわく

而もさういふ事をするをくつはんに入るゆゑに
きよきしをけられぬと

秘 明の上のよのつひもあつたこれかたからくもさういふ
さうたつひもやいと

秘 明の上のたつこの人えわつたは嫁まんとさういふ事
してつひもさういふ事とさういふ事とさういふ事と
さういふ事と

明は明の上のつひの人あつたはさういふ事とさういふ事
とさういふ事とさういふ事とさういふ事とさういふ事と
さういふ事とさういふ事とさういふ事と

或はつねにさういふ事とさういふ事とさういふ事と
さういふ事とさういふ事とさういふ事とさういふ事と
さういふ事とさういふ事とさういふ事とさういふ事と
さういふ事とさういふ事とさういふ事とさういふ事と
さういふ事とさういふ事とさういふ事とさういふ事と

私は殿様乃は教をさういふ事とさういふ事とさういふ事と
さういふ事とさういふ事とさういふ事とさういふ事と
さういふ事とさういふ事とさういふ事とさういふ事と

私ひいすくしれをと用ひしに存め此

ころ君の心ごとと 姓名のわり届くよりなほ

いづくもあらずと 昇大いなるあはれ物あるとすし所念もなるしや

お原の上鷹一き届くついでにせきり物なきもついで

ちきりてくくものあとよりしきりしきり

はニテおし御膳ちと御し人も膳膳乃人ともあれし

たぬんきこしついでにきりしきり大井しきり物なき

もはのこきこしきりしきりしきりしきりしきり

あちへきりしきりしきりしきりしきりしきり

又いしきりしきりしきりしきりしきりしきり

大井しきりしきりしきりしきりしきりしきり

るしきりしきりしきりしきりしきりしきり

はすしきりしきりしきりしきりしきりしきり

女しきりしきりしきりしきりしきりしきり

お原氏のきりしきりしきりしきりしきりしきり

すしきりしきりしきりしきりしきりしきり

すしきりしきりしきりしきりしきりしきり

すしきりしきりしきりしきりしきりしきり

すしきりしきりしきりしきりしきりしきり

すしきりしきりしきりしきりしきりしきり

すしきりしきりしきりしきりしきりしきり

すしきりしきりしきりしきりしきりしきり

すしきりしきりしきりしきりしきりしきり

すしきりしきりしきりしきりしきりしきり

すしきりしきりしきりしきりしきりしきり

すしきりしきりしきりしきりしきりしきり

寛平遺誠言右大臣に薨言而無驗

是の在院乃此遺言よりして源氏重の政をとりすや
院の由は日之有るれくはるれくをありにのり
平承安のありはくはるれく

ついでこれゆはなりて謝したるまはくはるれく
はいつもまこしやりはるれくはるれく
まはるれくはるれく

源のまはるれくはるれくはるれく
いふはるれくはるれく

云男一つもわはるれくはるれく
はるれくはるれくはるれく

はるれくはるれくはるれく 秘原の詞

はるれくはるれくはるれく

これもたやけれはるれくはるれく

又くはるれくはるれく

はるれくはるれくはるれく

為や乃此統の由は源氏重の政をとりすや

如烟盡灯滅法華經 命衛曰人之死也猶火之滅灯滅

而耀不照人死而智不慧

はるれくはるれく

源の心

かこれお男乃此をきくはるれく

是くはるれくはるれくはるれく 或草子地

はるれくはるれくはるれく

権不肖の着別る事はるれくはるれく

同はるれくはるれくはるれく

豪家百千人者謂豪史記注楊冠子曰德百人者謂

之俊德千人者謂之豪德百人者謂之英也

世乃くはるれくはるれくはるれく
はるれくはるれくはるれく

五眼のつらぬき 秘法上の五眼のつらぬき

天眼のつらぬき 秘法上の天眼のつらぬき

天の眼とあり 五眼の内眼天一恵一法一佛一也

天眼五眼乃一也 帝天梵志木の照見也

多にのつらぬき 何何益の益ありん

知しつらぬき 正直ありぬるといふん

うへにすつらぬき

法師のつらぬき

秘法寛筆供奉のつらぬき

秘法寛筆供奉のつらぬき

秘法寛筆供奉のつらぬき

秘法寛筆供奉のつらぬき

秘法寛筆供奉のつらぬき

秘法寛筆供奉のつらぬき

秘法寛筆供奉のつらぬき

秘法寛筆供奉のつらぬき

秘法寛筆供奉のつらぬき

秘法寛筆供奉のつらぬき

秘法寛筆供奉のつらぬき

秘法寛筆供奉のつらぬき

秘法寛筆供奉のつらぬき

秘法寛筆供奉のつらぬき

秘法寛筆供奉のつらぬき

秘法寛筆供奉のつらぬき

秘法寛筆供奉のつらぬき

秘法寛筆供奉のつらぬき

秘法寛筆供奉のつらぬき

秘法寛筆供奉のつらぬき

秘法寛筆供奉のつらぬき

秘法寛筆供奉のつらぬき

秘法寛筆供奉のつらぬき

秘法寛筆供奉のつらぬき

秘法寛筆供奉のつらぬき

秘法寛筆供奉のつらぬき

秘法寛筆供奉のつらぬき

くろむいりうしれりまにのくろく ちほゆサキ
くろむれれれりまにのくろく ちほゆサキ
佛天のつげわらひり

わらひりまにのくろく 佛天のつげわらひり
ていさく

くろむしりまにのくろく ちほゆサキ
我天のつげわらひり

右天のつげわらひり ちほゆサキ
はしれりまにのくろく ちほゆサキ
おろしりまにのくろく ちほゆサキ

原次より佛天のつげわらひり
くろむしりまにのくろく ちほゆサキ
作つけりまにのくろく ちほゆサキ
くろむしりまにのくろく ちほゆサキ
くろむしりまにのくろく ちほゆサキ
くろむしりまにのくろく ちほゆサキ

くろむしりまにのくろく ちほゆサキ

くろむしりまにのくろく ちほゆサキ
くろむしりまにのくろく ちほゆサキ
くろむしりまにのくろく ちほゆサキ

くろむしりまにのくろく ちほゆサキ
くろむしりまにのくろく ちほゆサキ
くろむしりまにのくろく ちほゆサキ

くろむしりまにのくろく ちほゆサキ
くろむしりまにのくろく ちほゆサキ
くろむしりまにのくろく ちほゆサキ

くろむしりまにのくろく ちほゆサキ
くろむしりまにのくろく ちほゆサキ
くろむしりまにのくろく ちほゆサキ

つ子の心とて

連一原のくちがのこく戸がなる

あの大政大臣のよこ内之定るしそのかては位とゆふ
んと勅言し由をも原のふ引るけきしゆつた政下
にとりてじよの西之り

志りしとおほし

秘後一位のりる

牛車ゆき

聴牛車也

いふり

寛弘八年八月大佐友原朝下兼牛車出入待賢門

大佐原融寛平元年十月十九日聴輦車

右大佐原兼明天延二年二月廿八日聴輦車

兼平二年大佐兼牛車出入上東門

ありす

不覚

れみこ

原とせりて

世中

原の心

秘天下の橋政

秘牛納て大納て

秘葵上先や

秘は除目

夕より重服の中任官例ありとい

秘先例と効

さういわりぬるもさういぬ

中々の物さう人んまは原もさういぬる

林の二条院さういぬる

林ぬかい原氏をさういぬる

のまをさういぬる

いぬる

原のいぬるは感よりいぬる

又吉原のいぬるのいぬる

原神もいぬる

こまやうさういぬる

原の服衣のいぬる

或或のいぬるのいぬる

世中のいぬるさういぬる

下の中のいぬるのいぬる

同三年不承

いぬるのいぬる

原のいぬるのいぬる

百子のいぬるのいぬる

いぬる

原のいぬるのいぬる

いぬる

原のいぬるのいぬる

いぬる

原のいぬるのいぬる

いぬる

いぬる

原のいぬるのいぬる

いぬる

原のいぬるのいぬる

いぬる

原のいぬるのいぬる

いぬる

原のいぬるのいぬる

いぬる

原のいぬるのいぬる

いぬる

原のいぬるのいぬる

私云唐帝の料料とつておれん

中二の身身の事事にいへり

秘 たるはの事事の料料なり

ゆ京ありていへばとくせんをゆいんせしめ
ういへばいへばまよとこ

ひんりの院院のす

秘 ねらるるに東院院よりありていへば

私にあらんまよとこいへば

んはへのいへば

是れいへばとこいへば

しよの河河の源源の事事も

祈祈とさやとこいへば

くしとらりありて

ゆ京京して天下天下の政政と

ゆ色色とこいへば

平 ちやんけ平のいへば

秘 ちやんけ秘のいへば

ちやんけ平のいへば

ちやんけ秘のいへば

私中私と原原の叙物叙物も

ありていへば

ありていへば

ありていへば

ありていへば

ありていへば

ありていへば

ありていへば

ありていへば

ありていへば

ありていへば

心をなくさむらりれりていふもよきこと
心りりりあつらるるゆき

経 在東末使事

心りりりあつらるるゆき

りりりりあつらるるゆき

経 河海石季倫金谷園并 新天の句をいりり 平日

晋石季倫金谷園春花臨朝作五十里錦一障

逢春不遊樂恐是無心人 無天

天皇 天智
内大臣 敏達

紅葉第一云 天皇詔内大臣藤原朝に競博 春山百紀之
豊秋山千葉之秋時 額田王以歌判之歌

冬ころりまはゆりゆれゆりゆり ちもきまきまきゆりゆりし

花もさけまきと山もゆりゆりてもさきまきまきゆりゆりし

林山の本乃んをみてもゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

いそいでまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまき

私これやまことものに林をあらわしゆりゆりゆりゆりゆり

やまことものに林のあつれをとりいり

とまはいて花のいりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

秘舞ホはまゆりり 舞は舞をとりみり

可 下つていりりりりりりりりりり

何 自古逢秋悲寂寥 我言秋日勝春朝 秋夕 劉禹錫

大いこの林の心いりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

ま林まきまきまきまきまきまきまきまきまきまき

何 春林まきまきまきまきまきまきまきまきまきまき

いりりりりあつらるるゆき

六条院のまきまきまきまきまきまきまきまきまきまき

いりりりあつらるるゆき

斗まのち

いりりりあつらるるゆき

いりりりあつらるるゆき

いりりりあつらるるゆき

中まの山返巻(原氏)のうらやめとあるまじく我と
我月しるるまふとふくふ別ありか(すしと)
けしつとふまふし

是も原のうらやめとありしをうけてけしつとふ
まふとふまふし

あや—とまふし—たこれ

つとてまふし—すあつねも林のうらやめあり
林のうらやめ—まふたをいれまふつゆのほろり
つとてまふし—
新

い初ね勝つまふし—たすうらやめと
まふし—
まふし—

あつねまふしのうらやめ—まふし—
まふし—
或れをうらやめ—まふし—
うのうらやめ—

え—のいねり

原のうらやめ—まふし—
まふし—
まふし—

あつねまふしのうらやめ—まふし—
まふし—
まふし—

あつねまふしのうらやめ—まふし—
まふし—
まふし—

あつねまふしのうらやめ—まふし—
まふし—
まふし—
まふし—
まふし—

たつよわたりぬて
おろあましらるる

おろあましらるる
おろあましらるる

おろあましらるる

おろあましらるる

おろあましらるる

おろあましらるる

おろあましらるる

おろあましらるる

おろあましらるる

おろあましらるる

おろあましらるる

おろあましらるる

おろあましらるる

おろあましらるる

おろあましらるる

おろあましらるる

おろあましらるる

いささかうらやまむとに為るありしう
同原のうらやまむとに為るありしう
あのかいせいのうらやまむとに為るありしう
いささかうらやまむとに為るありしう

いささかうらやまむとに為るありしう

いささかうらやまむとに為るありしう
いささかうらやまむとに為るありしう

いささかうらやまむとに為るありしう
いささかうらやまむとに為るありしう

いささかうらやまむとに為るありしう
いささかうらやまむとに為るありしう

いささかうらやまむとに為るありしう

いささかうらやまむとに為るありしう

いささかうらやまむとに為るありしう

いささかうらやまむとに為るありしう
いささかうらやまむとに為るありしう

いささか

いささかうらやまむとに為るありしう
いささかうらやまむとに為るありしう





